

道路空間を活用した地域づくりの自立に向けた取組み

国土交通省 九州地方整備局
宮崎河川国道事務所 道路管理第一課

1. はじめに

〔橋通りの概要〕

宮崎県宮崎市の橋通りは、宮崎市の市役所前交差点から江平五差路に至る約 1.8km の区間の道路の名称であり、大淀川に架かる橋橋から北に延びる道路であることからこの名称となったとされる。また、橋橋の「橋（たちばな）」の由来は、「日本書紀」の「小戸の橋」に由来するといわれる。特に市役所前交差点から橋通三丁目交差点間の約 900m は宮崎市の中心的な市街地となっている。

橋通三丁目交差点から南へ続く国道 220 号は、フェニックス、ワシントンアパーム、デイゴ、ブーゲンビリアなどの南国特有の花木が沿道に植栽され、数十 km の美しい海岸線には鬼の洗濯板や堀切峠に代表される自然の多彩な造形美も大変豊かなことから、県内外から訪れる観光客や県民が宮崎をイメージする際の代表的な風景のひとつとなっている。橋通りは、その入口的な存在でもある。

宮崎県の風景に関しては、民間の手により「大地に絵をかく」という壮大なイメージで日南海岸の国道 220 号沿いにフェニックスが植樹されるなどの取組みが進められ、沿道修景の基礎を作ったという経緯は大変興味深い。また、宮崎県において、昭和 44 年に全国に先駆け「沿道修景美化条例」が制定されたことなどからも、景観の美しさを保護し向上させることを重要視してきた県民性が伺える。



花々で彩られた歩道から見た国道 220 号橋通り



国道 220 号から太平洋を望む



沿道から国道 220 号を望む



様々なミュージシャンや楽団等が集い路上で音楽を奏でる「みやざき国際ストリート音楽祭」(左)、路上で様々な踊りが繰り広げられる「まつりえれこっちゃんみやざき」(中)、荘厳で華麗な雰囲気のお神幸行列などが行われる「宮崎神武大祭」(右)

〔橋通りと市民の関わり〕

ここ橋通りは、毎年、道路を開放して、春の「みやざき国際ストリート音楽祭」、夏の「まつりえれこっちゃんみやざき」、秋の「宮崎神武大祭」、など宮崎を代表する様々なイベントや祭りの開催により県内外の大勢の人々で賑わう宮崎のメインストリートであり、地域活性化のためにも重要な場所となっている。

このような、市民にも大変なじみの深い地域で、市民が主体となり、行政と協働しながら、道路環境及び景観の維持や向上に繋がる取組みを通して地域づくりを行う事例を紹介するとともに、行政支援に依存しない自立に向けた取組みも紹介する。

2. 市民主体の道路美化・清掃活動

〔みやざきフラワーロード・ネットワークの概要〕

橋通りを中心としたエリアを舞台に、地元商店街で構成される「橋通りフラワーロード推進協議会」が、国土交通省、宮崎市を含めた3者で平成15年4月1日にボランティア・サポート・プログラム協定を締結し、市民参加型の道づくり(清掃、植栽活動等)を行ってきた。現在は、平成16年9月5日に設立された「みやざきフラワーロード・ネットワーク」が中心となり、清掃、植栽活動、及び道路愛護の啓発活動を行いながら、宮崎における「花のまちづくり」を進めてきた。「みやざきフラワーロード・ネットワーク」は、「橋通りフラワーロード推進協議会」を含めた各商店街、市民ボランティア団体及びNPO法人等の各活動団体が1つのネットワークで繋がり構成されている。このような橋通りの活動のネットワークは、現在に至るまで広がりを見せながら、繋がり強固なものに発展してきた。

〔道守との比較〕

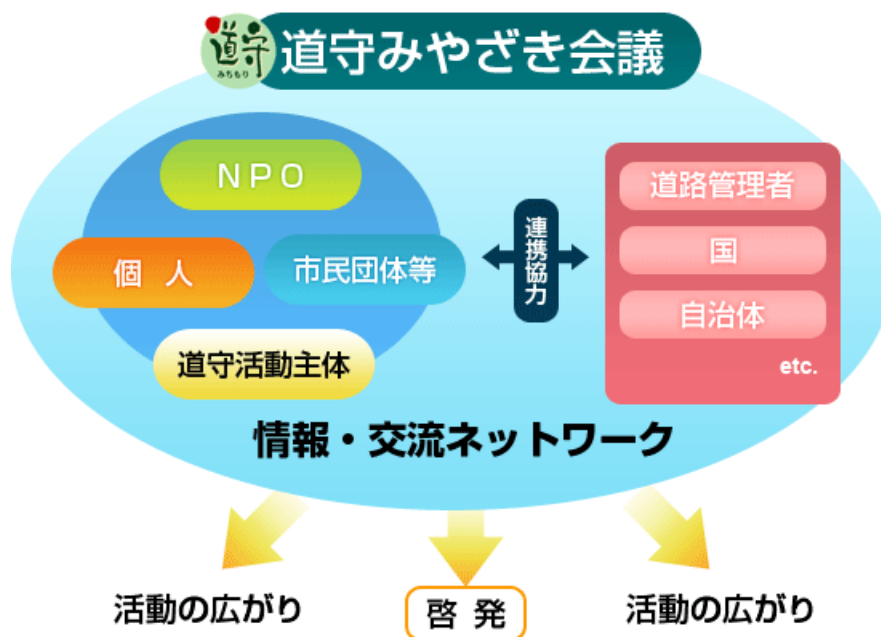
「みやざきフラワーロード・ネットワーク」を紹介するにあたり、各活動主体がネットワークにより繋がり構成される点で類似しているものとして「道守(みちもり)」が挙げられる。道守とは、『道守。その由来は遠く万葉の昔にさかのぼる。道を管理し、守り、旅人の飢えと渇きを癒す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は住民と行政が協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。』(道守九州会議発刊「道守通信」より)というものだ。九州各県でそのネットワークは構築されており、九州全体としては各県の道守会議を繋ぐものとして「九州道守会議」が組織されている。

宮崎県においては、平成16年6月に「道守みやざき会議」が設立され、現在では県内約80団体、約1



道守みやざき会議年次総会交流会の様子

万人で構成され、道路に関する活動を行う人々を繋いでいる。活動としては、道守全体での植栽・清掃イベント等を実施することもあるが、基本的にはそれぞれの団体等がそれぞれの地域で活動を行い、さらにそのネットワークを活用し、相互の情報共有を図り、活動を通じて道路愛護意識の向上のために地域への情報発信を行う。この点において、各商店街やNPO法人などで構成される「みやざきフラワーロード・ネットワーク」は、宮崎の中心市街地で活動主体（商店街やNPO法人等）がネットワークを構成し連携協力して活動するという意味でも同様の形態であると言える。



「道守みやざき会議」の全体イメージ。「みやざきフラワーロード・ネットワーク」においては、活動主体は、各商店街、市民ボランティア、NPO法人等により構成されるが、基本的なイメージは同じ。

〔市民による植栽ボランティア〕

春の「みやざき国際ストリート音楽祭」と秋の「宮崎神武大祭」の前には、毎年、橘通りを中心とする市街地において、市民参加型の地域にふさわしい美しい道づくりの取組みとして、そして祭りに訪れる人々を美しい花と緑で歓迎するため、みやざきフラワーロード・ネットワークが植栽ボランティアイベントを企画し実施している。イベントでは、約900mにわたり国道220号沿いに設置された植栽帯（花壇）の花の植栽や歩道の清掃などが行われ、平成24年4月においては、同団体の呼び掛けで市民約200名が集まった。

また、日常においては、みやざきフラワーロード・ネットワークを構成する地元商店街や団体等が自主的に清掃や植栽帯の維持管理を行っている。さらに、定期的に行われる「みやざきフラワーロード・ネットワーク会議」では、活動や道路環境・景観のあり方などが議論される。だからこそ、皆の連帯感が非常に強く、また、活動全体に統一感がある。



橋通りを含めた中心市街地での市民による植栽ボランティアの様子（左右）

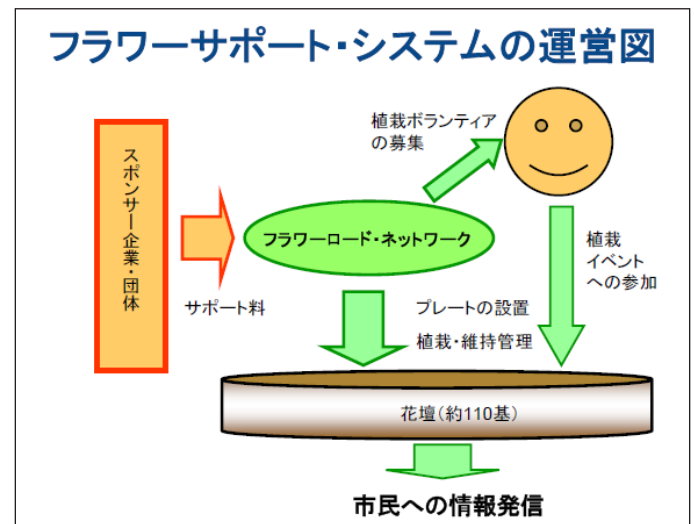
〔課題〕

宮崎の「花のまちづくり」を支える花の植栽や清掃などのボランティア活動を行うに当たって、その資金面の課題は避けては通れない。先に述べた「道守」においても同様の課題を抱える。これまでの「みやざきフラワーロード・ネットワーク」の植栽活動においても、花の苗の多くが地方公共団体等からの供給によるものであり、今後、財政状況の悪化等に伴う支援財源縮小が予測される状況において、これまでのように地方公共団体等からの支援に頼らず、花の苗の費用を自主的に捻出する手段を模索していく必要がある。この点で「みやざきフラワーロード・ネットワーク」が中心となり、行政を交えて議論がなされ、これを形にしたものが、次に紹介する「橋通フラワーサポート・システム」である。

3. 橋通フラワーサポート・システム

〔概要と目的〕

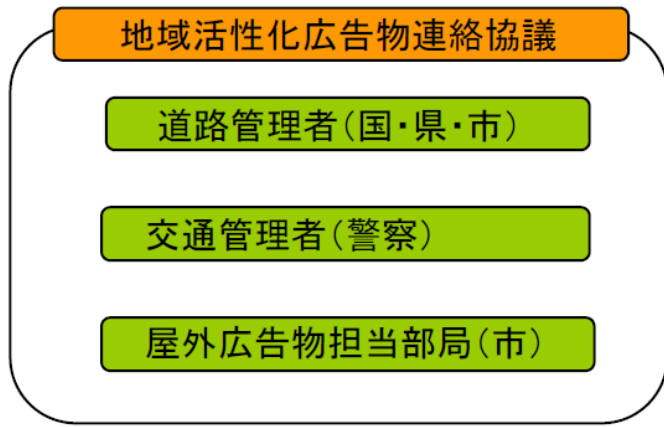
「橋通フラワーサポート・システム（以下、「本システム」という。）」は、「みやざきフラワーロード・ネットワーク」と地方公共団体等が一体となり、橋通りで行われている植栽活動（まちななかフラワーパーク事業）の自主財源確保に向けた取組みとして花壇内にサポート企業等のプレートを設置し、企業協賛により橋通りの「花のまちづくり」を推進する取組みであり、地方公共団体等からの補助に左右されない持続的な取組体制を整備することを目的としている。



「橋通フラワーサポート・システム」のイメージ

〔実施までの経緯〕

本システムの実現に当たっては、地域における公共的な取組みに要する費用への充当を目的とする広告物の道路占用の取扱いについて（平成 20 年 3 月 25 日付国道利第 22 号国土交通省道路局長通達）を活用する方法がないかの検討を始め、その後、同団体や地方公共団体及び国道管理者で数多くの打合わせを重



「地域活性化広告物連絡協議会」の構成団体

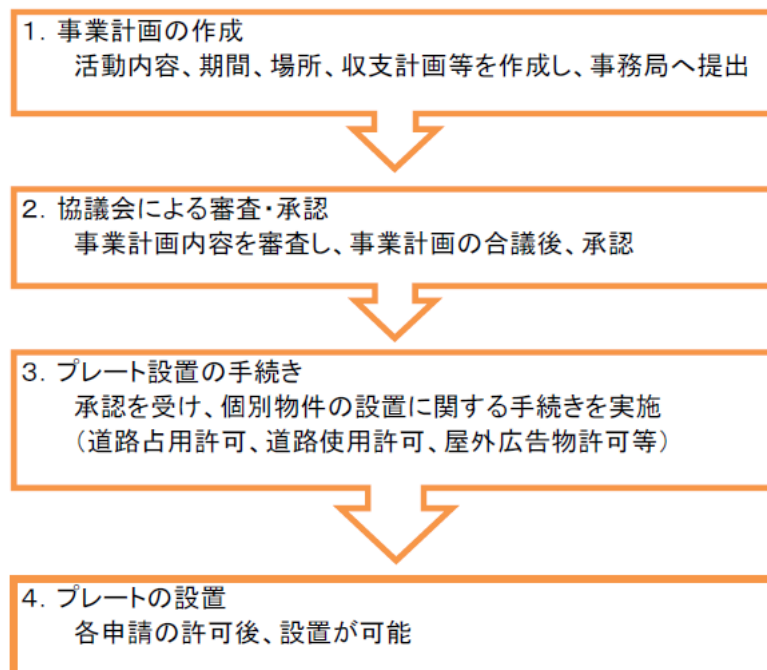
しく損なわれないことを考慮しながらデザインされた。更に花壇が企業等の協賛により維持管理されている旨を表示する形になった。

ねた。

同通達は直接の許可基準となるものではないため、プレートの表示内容、大きさ等について各関係機関と調整するために地域活性化広告物連絡協議会を設立した。同連絡協議会設立後は、次の手続きフローのとおり実施された。

また、同連絡協議会の中では全体計画とともに、プレートの形態についても協議が行われ、歩行者等の安全を考慮するとともに、車両の交通等に影響を及ぼさない形状とすることや、街や道路の景観が著

(本システム実現までの手続きフローイメージ)



〔目的と効果〕

現在、地元企業など約 14 企業（平成 24 年 6 月 30 日現在）が、本システムの趣旨に賛同し参加している。また、先に記載した「植栽ボランティア」の際にも本システムについて紹介され、集まった方々に対しても、その理解を深めるよい機会となった。参画した企業からも、「協賛金が地域のまちづくり活動に取り組む団体への支援や企業イメージアップに繋がるため地域貢献の一環としても積極的に参画したい。」、という意見があった。

これまでに紹介した市民参加による植栽ボランティアイベント実施や商店街等による花壇の維持管理や清掃活動のような取組みには、行政だけに頼らず、地域住民が主体となり地域づくりを継続的に行ってきたいという思いがあり、さらに今回の本システムには企業や各種団体などの多様な主体が地域づくりに参画することを促すことで地域活性化に繋がりたいという思いが根底にある。



橋通りの花壇と橋通フラワーサポート・システムのプレート

一人一人が「道」に対し出来ることを出来る範囲で自主的に実践し、草花を育て、清掃し、美しい町と心を育てる活動を実施している「道守みやざき会議」の諸団体等においても、花の苗や維持管理費の捻出は課題の一つであり、本システムがその課題の克服の一助となり得るものと思われる。

4. おわりに

地域住民が自主的に地域づくりに参画することは、地域の活性化のために欠かせないことである。その上で、行政としては、安全に活動が行えるよう十分な情報提供を行うことも必要であるし、活動を広く地域へ周知し活動の活性化を図ることも効果的なサポートとなるだろう。また、道路空間の活用にあたっては、道路管理者としても自主的な地域づくりの取組みに対して、適切な助言や情報提供を行うなど支援・協力する姿勢が求められる。

橋通りにおける活動等は、行政がリードするというよりは、住民が自らのイメージを行政と協働しながら、形にしてきた好事例といえる。さらに、九州においても先進的な取組みである「橋通フラワーサポート・システム」が、行政の公助に依存せず活動主体が自主的かつ継続的に活動を進める取組みとして、最終的には地域づくりにおける活動の自立に繋がっていくものと期待したい。